

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 4階

事業所番号	2772301285		
法人名	大盛施設株式会社		
事業所名	ドゥ マサコーヌ鶴ヶ丘 グループホーム		
所在地	大阪市阿倍野区西田辺町1丁目11-3		
自己評価作成日	平成23年3月15日	評価結果市町村受理日	平成23年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-">http://www.osaka-fine-kohyo-</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループ内に病院があり、安心感がある。窓が多く、採光に恵まれており明るく開放的である。「心に寄り添いながらその人らしく」をモットーに、共に楽しみ共に生活する温かな家として、その人らしさを維持出来るように、又過剰介護にならないように支援している。日々穏やかに楽しく過ごし、生活に潤いがあるように支援している。毎月の行事も季節感を感じて頂けるよう努めている。各居室にトイレが設置されており、プライバシーの侵害なく落ち着いて排泄が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR阪和線鶴ヶ丘駅から徒歩2分、地下鉄駅からも徒歩8分の交通至便のロケーションで、長池公園湖畔に建っている。各ユニットのリビング(食堂)からの景観が素晴らしい。池の噴水、釣り人、湖畔の木々の緑が美しく、季節の移り変わりや、人の動きなどをを感じる事ができる。管理者が看護師であることや、系列の病院との連携による医療支援体制は家族への安心感につながっている。職員が何事も本人中心の柔軟な対応を心がけているために、利用者は落ち着いており、おだやかな表情を見る事ができる。季節の行事等をいろいろ工夫して、利用者が楽しく過ごせるよう努めている点も家族から評価されている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、温かく思いやりのあるふれあいの心を大切に、日々の福祉サービスに努め、利用者や地域の方々と共により良い福祉の実現に寄与する理念を掲示し、入職時に説明。会議や研修で共有し意識しながら取り組んでいる。	地域密着型サービスの求める方向を理念に表現している。職員間の申し送り時やミーティング時に確認して、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、出席することによって情報を得ている。又公園の清掃活動や避難訓練にも交替で参加している。散歩などで地域の人達と挨拶し交流を深めている。	町内会との付き合いとして、自治会に加入し、公園清掃行事には職員がユニホーム姿で参加している。利用者の散歩時には挨拶を心掛けるなど、地域住民に事業所を知ってもらい、理解してもらうように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、情報の提供を行っている。また、渉外活動を通して情報の提供をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員・民生委員・利用者・利用者のご家族・帝塚山病院の事務次長が参加し、活動状況や行事報告等を行い、意見交換を行っている。議事録については職員間で廻し読みし、要望や意見については検討している。	地域の代表とし民生委員が1名出席している。主に事業所の状況報告を行い、家族からの発言、地域との交流等についても意見交換が行われている。	この会議を活性化するために、地域からの参加者をあと1名ほど増やすことで意見交換の幅が広がると思われるので、運営推進会議等で検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉連絡会に出席し、情報交換を行っている。	利用相談や研修でのつながりや、施設連絡会等で行政とのコミュニケーションを確保している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各階入り口はボタンを押すと開閉し、チャイムが鳴るように設置している。職員には入職時に説明をしている。安全面等でやむを得ず拘束が必要な時には、ご家族に説明をし、同意を得た上でやっている。	職員へは禁止行為について研修やミーティングで指導と徹底を図っている。帰宅願望の強い利用者には、職員が注意を払って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があれば研修に参加させている。参加時には後日伝達講習を行っている。又、日常的に職員間の連携を蜜にし、早めに声かけをし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参加の機会があれば参加するように努めている。参加時には、後日伝達講習を行っている。必要に応じ、関連機関へ連絡・相談するようにしている。現在3名の方が成年後見人制度を利用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明と文書により納得の上で契約を交わしており、重要事項説明書についても同時に説明し、同意を得ている。改定等の際は随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に要望や意見が言えるような雰囲気づくりに心がけており、日常の会話の中にも不満等が表れていないか注意している。玄関には意見箱を設置しており、問題・意見には早期に対応するようにしている。	電話等で連絡した際や、家族来訪時にケアに関する要望を聞き出すようにし、ホーム便り「ふれあい通信」や電話で、適宜、家族に報告することに努めており、連絡内容・頻度については家族も評価している。	いろいろな事情により、事業所への来訪回数も家族によって異なるので、職員の交替・異動の際には、連絡が徹底するような工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見や提案を聞くようにしており、必要に応じ皆で検討するようにしている。内容によっては上層部へも意見を上げるようにしており、内容によっては上層部の人の出席もある。	定例の職員ミーティングや毎日の申し送りの時に、職員は利用者の支援方法や運営について提案を行っている。職員の明るい様子は家族も評価している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との交流の場をもち、意見・要望等を聞き、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加させており、他の職員への伝達講習も行っている。年間の勉強会を計画している。資格取得に向けての協力も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、研修や交流の場に参加するようにしている。阿倍野区のGHの交流会に参加し意見交換や情報交換を行っている。ヘルパー実習を受けており、意欲向上と自己の振り返りにつながるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問・面談をし、利用者の困っていることや要望を聞くようにしている。今までの生活歴や取り巻く環境、本人の性格等も把握するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談・面談で、ご家族の困っておられることや要望・不安等を聞くようにしており、納得して入居していただくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にグループホーム入居対応かどうか判断し、不適応と思われた場合には他のサービス期間への対応を支援している。また必要に応じ、福祉用具の対応も配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能・維持能力を考え、自立支援につながるようサービスの提案を考えている。共に生活する者として、喜怒哀楽を共有できるような環境づくり、生活援助に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者の日々の生活状況を伝えており、ケアの変更等も、本人の気持ちを大切にしながらご家族に意見を聞いている。些細なことでも報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人が訪ねやすい家庭的な雰囲気づくりに配慮している。外出や面会制限は特にしていない。使い慣れた生活用品や家具等を持ち込んでもらい、安心して過ごせる場所づくりに配慮している。	家族や本人から聞き取った生活歴の中から、本人が大切にしてきた事柄、昔から続けて居る習慣も含めて、職員皆で共有して、本人の支援につなげていくように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活上の軽作業を利用者同士で協力しあうように支援している。コミュニケーションが困難な利用者には、職員が寄り添い交流が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の案内や季節のお便りを出している。必要に応じ相談も受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や随時、利用者やご家族の希望を聞くようにしている。帰宅願望など現状の把握が困難な人には、ご家族の協力を得て外出・外泊が出来るように検討している。	本人の新しい暮らしの場所である事業所で、毎日をどう過ごしていくかについて、家族の協力を得ながら支援方法を考えている。利用者個別の柔軟な対応に家族の評価は高い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談カードや生活状況申告書を入居前に記入してもらい、今までの生活状況を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護支援経過に一日の過ごし方と現状を記録している。心身状況に変化があるときには支援経過や申し送りノートに記録し伝達。就業前に記録物に目を通し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に暫定ケアプランを立案し、利用者・ご家族に説明、同意を得ている。随時、ご家族や職員からの意見や情報を聞きカンファレンスを開催、見直しを行っている。	利用者の少しの変化も見逃さないように、職員間でカンファレンスで話し合いながら計画の見直しを行っている。計画担当者が常勤している態勢も事業所の強みである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護支援経過に記録している。一日を通して身体面・精神面での変化やレクリエーションへの参加・興味等気づいた事も記入するようにしている。申し送りで得た情報を交換し共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス提供に当たっては、利用者の要望を聞くようにしており、介護保険以外や医療・福祉サービスの利用等も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活できるよう周辺地域の機関から協力を得られるようにしている。また、周辺への散歩や買い物・喫茶店利用等生活に潤いが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、或いは随時利用者・ご家族の希望を聞き、適切な医療が受けられる支援している。必要に応じ主治医への情報提供や連絡も行っている。	管理者が看護師である事や、系列の病院を主体にした医療連携体制が家族に安心感を与えている。家族と連絡を取りながら症状への適切な処置を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、同館内デイサービスにも看護師が配置されており、いつでも相談出来たり適切な処置が行えるようにしている。また必要に応じ、関連機関との連絡も取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ内に病院があり、主治医や関係者と密に連絡を取り合っている。他の病院へ入院時には定期的に面会に行き、ご家族との連絡も密にとるようにしている。必要に応じカンファレンスにも出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時・入院時の対応について利用者・ご家族の意向を聞くようにしている。重度化した場合にもその都度、利用者・ご家族の意向を聞くようにしている。終末期に関してはチームで支援に取り組んだ経験がある。	入所の段階で重度化及び終末期への対応について家族の意向を聞き、状況に応じてその都度家族と相談している。事業所の対応方針や支援体制については職員との情報共有も出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時の連絡網を作成し、掲示している。年間勉強会の計画に予定している。随時実技を含めての勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者参加による消防訓練を行っており、その都度消防署へも届出をしている。近隣住民へも声をかけており、地域の防災訓練にも参加。防火設備点検を年に2回実施。各階に避難経路を掲示している。	定期的な避難訓練を実施すると共に、町内防災研修、防災訓練に職員が参加するなど地域の協力を得られるように日頃から努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共に暮らす家族と想う一方、人生の先輩としての一人ひとりの人格を尊重し、対応するように心がけている。	人格を尊重した対応、本人のプライドにも心を配った話し方、個人情報への取扱い等について、研修や職員ミーティングで徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に応じた働きかけや説明を行うようにしており、利用者の希望や思いが表せるよう場所も配慮し聞くようにしている。利用者の力に応じた説明により自己決定し、納得しながら生活できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースにあった対応を心がけている。個々の趣味を把握し、提案しても押し付けにならないよう自己決定で行うようにしている。日常的に居室で自己の趣味を楽しむ利用者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に馴染みの衣類や装飾品を持参されている。必要に応じアドバイスをしている。希望により訪問理・美容を利用しており、髪形やカラー・パーマの希望も聞くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の身体機能や能力に合わせて盛り付け・テーブル拭き・片付けを一緒に行っている。職員も会話を楽しみながら共に食事をしている。年に1～2度は外食で気分転換を図っている。	食材は業者から仕入れているが、調理は職員が担当している。利用者にも能力に応じて配膳、下膳等への参加を促している。外食する機会を作って、食の楽しみをみんなで味わうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立に基づいて食材が届いており殆どの利用者が毎食全量摂取。一日を通して水分もしっかり摂取。夜間も個々にお茶を配布し、覚醒時に水分摂取を促している。個々により形状に留意したり、介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後・就寝時等に口腔ケアの声かけを行っており、介助の必要な人には個々の能力に応じて支援している。希望者には歯科医・歯科衛生士によるケアもしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの状況に合わせた排泄介助を行っている。出来る限りオムツは使用しない、排泄はトイレでの方向で考えており、夜間も個々に応じた対応に心がけている。	排泄パターンを個々に把握して、タイミングの良い誘導をしながら、自立した排泄習慣が維持できるように努めている。便秘時には食事との関係にも気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今までの経過から、運動や水分摂取を働きかけ、一人ひとりに適した対応をとるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日午後入浴としている。無理強いはいないようにしている。外出やそのときの体調を考慮し随時入浴できるようにしている。	利用者の希望を聞きながら、日にちを変えたりしてゆったりできる入浴支援に努めている。体調により清拭やシャワー浴への変更も臨機応変に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して生活のリズムが保たれるように配慮しており、状況に応じては臥床してもらうよう声かけを行っている。一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安眠できるような環境を整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルに閉じており、いつでも確認できるようにしている。個別に区別しており、確実に内服できるようチェック表にてWチェックしている。状況により看護師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々に応じた役割を声かけし、無理のないよう支援している。レクリエーションや散歩等も今までの生活習慣を考え働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の状況により近くの公園に出かけたり、希望によっては喫茶店にも出かけることもある。行事として「初詣」「お花見」「夏祭り」「一日旅行」「Xマスコンサート」等計画しており、ご家族にも参加を呼びかけている。	四季折々の行事での外出もよく企画されており、散歩や買い物にも機会を見つけて支援している。活動という面では、室内でも体操や趣味の活動等の支援も多く、家族も評価している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心感も考慮し、利用者にとっては小銭を持参されてる方もおられる。紛失によるトラブルを考慮し、ご家族と相談の上決定している。基本的には預かりとし、必要時に手渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には利用者の能力に応じ支援している。電話番号がわかる方にはご自分でかけていただき、わからない方には職員が中継ぎをしている。手紙の投函や必要物品の購入等も個々に応じ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓面が多く採光に恵まれており、カーテンや窓の開閉で光や音の調整を行っている。花瓶には季節の花を活けるようにしており、利用者の作成した季節感ある作品を掲示している。日常的に音楽を流すように心がけている。	特に、食堂兼リビングが明るく、外の景色が大変よく、且つ、BGMが流れているために、静かに時間が過ぎて行く感じがする。室内の季節の花も雰囲気にもマッチしている。	出入り口のドアの開閉時になるチャイムの音色が、折角の静かな空間と少々違和感を感じるので、その点について職員ミーティング等で話し合ってみてほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・椅子・テレビを置き、思い思いに過ごせるようにしている。また、廊下にはベンチがあり、そこでの会話や一人の時間が持てるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	許容範囲内で馴染みのものを持参されており、居室を自分の部屋として過ごされている。	居室は清掃が行き届き清潔感があり、職員の努力の様子がうかがえる。懐かしい写真が置いてあったり、馴染みの家具が持込まれていて、本人らしい部屋作りがされており、落ち着いて過ごせる雰囲気が出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分、廊下やリビングに手すりを設置。各居室のトイレにも手すりを設置している。洗面台は車椅子に乗ったまま使用可能な高さである。		